

海のストーリー

サーファー・海洋研究家
吉田 正 さん

●プロフィール
1940年生まれ。日本のサーフィン黎明期から長年に渡り、サーファーとして国内外で活躍し、レジェンドサーファーと呼ばれる。現在は海洋研究家として、「砂浜を取り戻す活動」を精力的に行っている。



国内有数のサーフポイント「一宮町」
一宮町にサーファーが現れ始めたのは1960年代といわれています。また、釣ヶ崎海岸の隣の太東海岸は日本のサーフィン発祥の地とも呼ばれています。1990年代後半はサーフショップも数件しかありませんでしたが、2000年以降ショップもサーファーも増えてきました。今では年間約60万人のサーファーが訪れる国内有数のサーフポイントになっています。オリンピックサーフィン会場となった釣ヶ崎海岸にあるサーフポイント通称「志田下」は、プロ選手や上級者が練習をさせている「波乗り道場」とも呼ばれています。

「怖いもの知らずのレジェンドサーファー」
吉田さんがサーフィンに興味を抱いたのは、21〜22歳の頃。偶然目にしたアメリカのサーフィン雑誌の世界に魅了され、「自分もやってみよう」という衝動に駆られました。すぐにサーフボードを探し始めたものの、当時の外国製サーフボードはあまりに高価。田んぼ一反歩が約10万円という時代に、15万円前後の値がついていたため、とても手が出なかった時

期も。暫く様子を見てなんとか手頃な国産のサーフボードを購入し、一宮の海で波乗りを開始しました。昔から、かなり無鉄砲な性格。日本だけではなくハワイなど海外にも積極的に遠征し、誰もが怯むような大波にも果敢に挑戦。その無茶ともいえるスタイルが注目を集め、いつしかレジェンドサーファーという異名で海の仲間達に親しまれるようになりました。また、現在は閉店してしまいましたが、長年、自身のサーフショップを営み、店に訪れた数多くのサーファーと交流。時には相談に乗ったり、時には指導したりと、サーフィン界の父親、または師匠のような役割も果たして、現在も多くのサーファー達に慕われている吉田さん。「今思えば、実に長い間サーフィンと共に歩み、サーフィンに関わる様々な活動に関わって来られたのは幸せでした。」と語ります。

サーフィンを支える一宮町の未来
吉田さんの故郷であると同時に、全国的にも名の知れたサーフィンのメッカでもある一宮町。東京オリンピック後も、日本だけでなく世界中からサーファー達が集まり、町はより活性化されると吉田さんは考えています。「東京オリンピックまでと少し。個人的には、一宮町に縁がある若い選手たちの活躍を期待しますが、まずはオリンピックを成功させること。そして一宮町の素晴らしさを世界に発信したいです。より良い町にしたいという気持ちは、町を愛する人みんなの願いですから。」
レジェンドサーファー吉田さんが情熱を注ぎ続ける一宮の海に、2020年、新たな伝説が生まれるかも知れません。

※志田下…釣ヶ崎海岸で昭和33年から海の家を営んでいた志田利寿さん(志田順子さんの父)を慕うサーファーたちが「志田下」と呼ぶようになり、現在でも多くのサーファーからその名前で親しまれている。



オリンピック開催会場決定までの経緯

平成27年9月に東京オリンピック・パラリンピック競技大会の追加・競技種目としてサーフィンを含む5種目を国際オリンピック委員会に提案することが決定しました。同年11月には千葉県外房地域(16市町村)と千葉県内のサーフィン連盟4支部で同地域にサーフィン会場を誘致するよう千葉県知事に要望しました。その中で、一宮町の海岸は、「一年通してコンスタントに波が有る」「過去に世界大会の実績がある」「東京からのアクセスがよい」などをアピールし、招致活動を展開しました。

平成28年2月にはオリンピック担当大臣、同年3月には東京オリンピック組織委員会会長と面談し、一宮町・いすみ市をサーフィン会場にしてほしいと要望しました。そうした中、同年8月にサーフィンのオリンピック競技採用が決定し、釣ヶ崎海岸が予定地として上げられました。そして同年12月8日ついに、釣ヶ崎海岸が正式にオリンピック会場に決定しました。

(オリンピック推進課長 高田亮)

一宮町からオリンピックに参加・関与した方々

実は、一宮町には、過去にもオリンピックに縁の深い方々があります。

- 鶴岡 榮さん ベルリンオリンピック(1936)の水泳代表選手として活躍しました。一宮出身。(右下写真一番左)
- 志田 順子さん 女子槍投げの選手としてメルボルンオリンピック(1956)に出場しました。東浪見出身。(左下写真中央)
- 高石 真五郎さん 国際オリンピック委員会の委員として東京オリンピック(1964)、札幌オリンピック(1972)の招致に尽力しました。一宮には別荘をかまえていました。



「サーフィンと生きる町。」と題したWebサイト(<http://ichinomiya-surftown.jp>)を開設し、一宮町の魅力を広く発信しています。

神々降臨の地に、新しい風が吹く。



一宮町ふるさと大使 大原洋人選手

東京2020オリンピック競技大会が“釣ヶ崎海岸”にやってくる!!



国際サーフィン大会[QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN]も開催される釣ヶ崎海岸が、東京2020オリンピック競技大会サーフィン競技会場に決定!



開催会場

釣ヶ崎海岸は、上総国一宮・玉前神社の祭神、玉依姫が上陸したところと伝えられ、海幸・山幸の伝説もあります。地元の良い伝えでは、海幸彦が釣りをしたところゆえに「釣ヶ崎」と呼ばれるようになったとのこと。つまり、神々と人間の交わる場としてとらえられてきた神聖な場所なのです。その場所で、現代的スポーツの最先端とも言えるサーフィンの世界大会が行われ、さらに2020年のオリンピック会場に選ばれたのです。一宮町において頂いた皆様には、海辺に立つ鳥居を仰ぎながら、一宮の重層的な魅力を存分に味わって頂けます。

